

優良日本株ファンド【愛称:ちから株】 初回決算のお知らせ

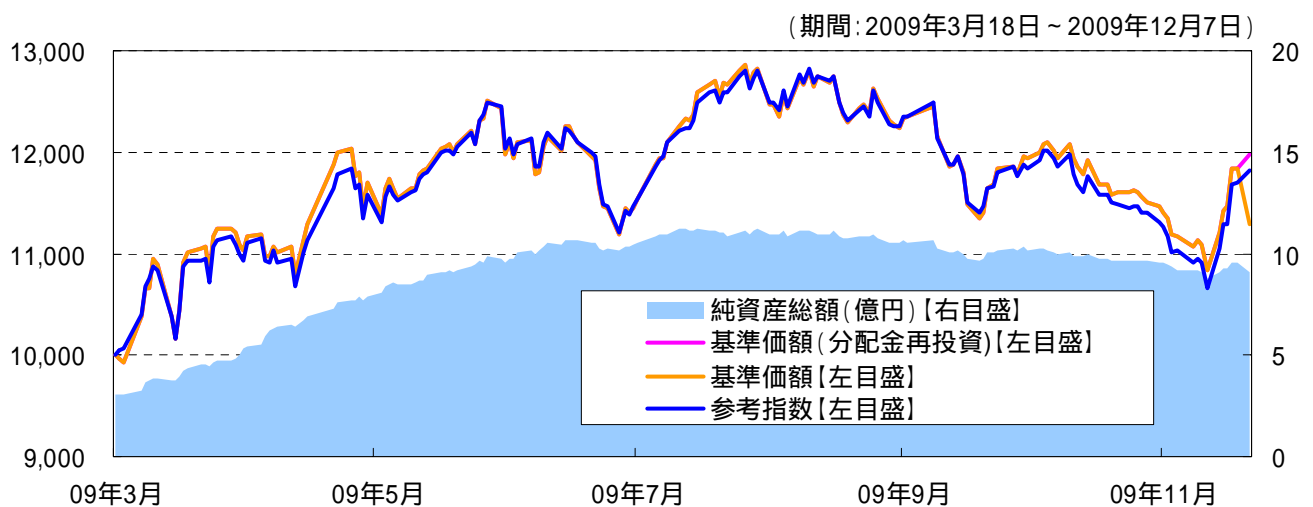
追加型投信 / 国内 / 株式

当ファンドは12月7日に第1期の決算を迎えました。運用状況についてご報告申し上げます。なお、運用経過の詳細につきましては、マンスリーレポート等をご参照ください。

優良日本株ファンド【愛称:ちから株】(設定日:2009年3月18日)は、2009年12月7日に第1期決算を迎えました。当期の分配金は、基準価額水準等を勘案し、700円(1万口当たり、税引前)といたしました。決算日の分配金落ち後基準価額は11,276円(設定来 +1,276円)となりました。また、分配金(税引前)を再投資したものと計算した設定来 の騰落率は+19.76%の上昇となりました。

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合がございます。
当公募期間申込価額(1万口当たり)対比。

運用状況(基準価額の推移)



・基準価額、基準価額(分配金再投資)、参考指数は設定日前営業日を10,000として指数化しています。
・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.05%(税抜1%))控除後の値です。
・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

参考指数は東証株価指数(TOPIX)です。

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算日	2009年12月7日	-	-	-	設定来累計 700円
分配金	700円	-	-	-	

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

(注)当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。
また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。
基準価額および分配金は1万口当たりです。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

優良日本株ファンド【愛称:ちから株】

ファンドの特色

- ・わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長をめざします。
- ・株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。
- ・競争力のある優良企業の株式の中から、割安と判断される銘柄(ちから株)に厳選投資します。
- ・銘柄選定にあたっては、株価の割安度等に注目して30～50銘柄程度に投資を行います。
- ・実際の運用にあたっては、主に優良日本株マザーファンド受益証券を通じて投資を行います。

商品概要

設定日 : 2009年3月18日
 決算日 : 原則として、毎年6・12月の各5日(休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 2018年12月5日まで
 ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には、信託期間の途中で信託を終了させることがあります。
 参考指数 : 東証株価指数(TOPIX)
 お買付け申込み : 原則として、いつでもお買付け申込み、換金のお申込みができます。
 中途換金
 申込価額 : 申込受付日の基準価額

【お客さまには以下の費用をご負担いただけます。】

申込時に直接ご負担いただく費用
 申込手数料 : 申込価額×2.1%(税抜2%)を上限として販売会社が定める手数料率
 換金時に直接ご負担いただく費用
 信託財産留保額 : なし
 保有期間中に間接的にご負担いただく費用
 信託報酬 : 純資産総額に対して、年率1.05%(税抜1%)
 その他費用(*) : 売買委託手数料、監査報酬、組入資産の保管等に要する諸費用、先物取引・オプション取引等に要する費用等
 (*)'その他費用'については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。
 なお、お客さまにご負担いただく費用等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
 (課税関係)個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。
 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
 当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

当資料のご利用にあたっての注意事項等

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式市場の相場変動により組入株式の価格が下落すること、組入株式の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により組入株式の価格が下落すること等で当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資家のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。当ファンドの主な投資リスクとして、組入株式の価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク等があります。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「基本情報 リスク」をご覧ください。

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/ 金融商品取引業者以外の金融機関は、投資者保護基金に加入しておりません。/ 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/ 投資信託の取得のお申込みを行う場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。/ 投資信託は、書面による契約の解除(クーリング・オフ)の適用はありません。/ 運用により信託財産に生じた損益はすべて投資家のみなさまに帰属します。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。/ 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/ 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/ 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

(お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

設定・運用 ...三菱UFJ投信株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会 (社)投資信託協会
 (社)日本証券投資顧問業協会

<お客様専用フリーダイヤル> 0120-151034(毎営業日の9:00～17:00)
 <オフィシャルサイト> <http://www.am.mufg.jp/>
 基準価額・分配金をメール配信 <http://k.m-muam.jp/a/1/3>
 (*メール配信対象外ファンドもあります。)



当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

<p>市場リスク</p>	<p>(価格変動リスク) 当ファンドは、株式を実質的な主要投資対象としており、株式の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、当ファンドはその影響を受け株式の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p>信用リスク</p>	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p>流動性リスク</p>	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている株式の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p>留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。 ・ 当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。 ・ 当ファンドは、投資判断によっては特定の銘柄に集中投資することがあります。当該銘柄が大きく下落した場合、ファンドの基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

